

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	きらり倉敷		
○保護者評価実施期間	令和7年1月14日		令和7年1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数) 7
○従業者評価実施期間	令和7年1月9日		令和7年1月18日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月15日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員間でお子さんの状況を評価し、個々に合わせた個別支援計画を立案、遂行すること	<ul style="list-style-type: none"> ・児童発達支援管理責任者を中心に計画の見直し、立案をの際、チーム(保育士、児童指導員、作業療法士)で会議を行っている。 ・子どもたちの発達検査の結果、遊びや生活の様子、園や家庭での様子、保護者ニーズを、チームで共有し、計画立案を行っている。 	<p>毎日の朝礼、終礼を継続し、子どもの姿や、支援内容、家庭や園での状況を職員間で共有していきます。</p> <p>また、それぞれの専門性を高められるように法人内外の研修に積極的に参加したり、職員個々の年間目標を立てて遂行したりしていきます。</p>
2	保護者向け勉強会の開催が定期的にあること	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアレントトレーニング、就学勉強会、サポートブックやかがやき手帳の書き方説明会、ビジョントレーニング等を開催している。 ・保護者の方が参加しやすい時間帯を設定したり、日程の合わない方へは個別に説明の時間を設けたりしている。 	保護者の知りたいこと学びたいことを調査し、勉強会を設定していきます。
3	活動プログラムが固定化しないように留意している	<ul style="list-style-type: none"> ・「出来た」と子どもたち自身が感じられるように反復練習を大切にしつつ、新規活動、行事活動にて経験の幅を広げられるようにプログラムを工夫している。 ・園行事同様に季節ごとの活動を設定し、イレギュラーな活動に対してどのような支援があると、より参加を楽しめるか評価し準備を行っている。 	子どもたちのやってみたいことも調査し、活動に反映させていきます。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会が少ない	・土曜日週一回の利用という限られた時間の中で、事業所内での個別支援、小集団支援を優先していたため。	・地域の学校や学童等の連携はありませんでした。地域資源としては、地域の公園やコンビニ、スーパー、パン屋を利用しました。地域の中で出来ること、楽しめることを増やしていけるよう、引き続き地域資源を活用する時間を設けたりその中で地域の方と触れ合う機会を増やしていきます。
2	保護者同士の交流の機会が少ない	・保護者向け勉強会の開催は行っているが、保護者同士が悩みを共有したり雑談したりできる機会が少ない。	・勉強会とは別立てで、座談会やワークショップを計画し、保護者同士のつながりが持てるようにしていきます。
3	子どもの活動スペースに手狭さがある	・遊戯室や園庭等、子どもが思い切り身体を動かすことのできる環境が事業所内にない。	・大きな遊戯室や園庭はないため、サーキットやトランポリン等室内遊具、水やり当番にて身体を動かす時間を設けています。また、年に数回、施設外へ散歩や公園遊び、買い物活動へ出かけています。大きく環境改善は難しいですが、子どもたちに合わせて運動できる時間を設けていきます。